第二学年　国語科学習指導案

単元名　豊かな言葉「短歌を味わう」～短歌を作り、思いを伝える～

一　指導事項　第二・三学年「B　書くこと」イ
　自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすること。

二　単元の評価規準

ア　国語への関心・意欲・態度	イ　書く能力
広い範囲から必要な材料を集め、立場や伝えたい事柄を明確にし、相手に効果的に伝わるように表現を工夫しようとしている。	自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にしている。

三　単元について

○　本単元の指導事項として、第二・三学年「B　書くこと」イ「自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすること」が位置づけられる。本単元で短歌と前書きに取り組むという活動は、言語活動例から見ると、「B書くこと」の「(ア) 説明や記録などの文章を書くこと」を具体化したものとなっている。

○　本学年の生徒は、昨年度四月に実施された学力実態調査の結果で「読むこと」以外の観点で全国の平均値を下回っていた。しかし今年度実施の実態調査では「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の四観点については平均値を上回る結果となったことから、この一年間で学力が向上してきたことがわかる。しかし「書く能力」は依然平均値を下回っている。

　本学級の生徒は、例えばアンケートなどに対する模範回答を作ることはできる。これは表面的には「書くこと」への適応である。しかし現実的には、自分で考えていることを表現する力や、語彙を充分に蓄えているとは言えない面がある。

　第二学年の国語科の授業での取り組みとしては、年間を通じて始業時の五分間を、漢字練習二回、小テスト一回の割合で漢字の時間として設定している。これは新出漢字を正確に身につけることと、熟語や単文を通して語彙を増やしていくことを目的としている。目的を理解して取り組んでいる生徒はそれなりに成果を出しているが、受動的な姿勢で取り組む生徒たちへの対応が今後の課題である。

○　短歌について、生徒たちは小学校で学んでおり、基本的な知識を持っている。しかし、実際に限られた音数に自らの思いを込めるような経験は充分とはいえない。教科書の文章には、短歌の一般的な解説ばかりではなく、筆者や登場する歌人たちが、短歌という形式を通して言葉と向き合い、新しい時代の表現を生み出そうとしてきた姿が記されている。筆者は、読者に向かって直接的に短歌を作ることは勧めてはいないが、自分も作り続けてきた短歌という表現形式が、これからも自己表現としての価値をもち続けるだろうという思いが表現されている。そこには、若い読者に対する婉曲的な誘いがあると読むべきであろう。短歌という限られた音数の定型詩を作ることで、ひとつひとつの言葉と向き合い、言葉に対する思いをより深めるきっかけとすることができるのではないかと考える。

○　もちろん、短歌を作るという作業だけでは簡単に思いを伝えることはできないだろう。そこで、補足的な意味で、自分の感じたことやその情景を文章にまとめて前書きとして短歌に添える活動を加えることにした。この二つの活動を通して、自分の思いを書くことで自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にする力を身につけさせたい。

　指導にあたっては、教科書の中の第二首、正岡子規の歌の前書きを参考にして、自分が作った歌の情景や心情・自分が見たもの、感じたことなどを補足的に書くことができるようにしたい。そこで、正岡子規の歌に添えられている前書き（歌の後の文章を含む）を読み、決して長くはないこの文章に、子規が病床にあることや、題材とした藤の花のようすなどが描かれていることを読みとり、歌の鑑賞文とは異なることに気づかせる。そして「自分が作った短歌を、より具体的に読み手に伝える文章を書く」という目標に沿って原稿を書き、推敲させる。ここでは、目的や条件に従って短い文章を書くことで、言葉の持つ力を感じさせ、思いを伝える実感をもたせたい。

　なお、本校の研修のサブテーマが「〇〇の自然を生かした地域の教育力活用をとおして」であることから、〇〇の自然そのものを教材化するという視点にたち、短歌の題材を「〇〇の自然・建物」に特定して取り組むこととした。生徒たちにとって〇〇は身近にある平凡な山にすぎず、特別に思いを寄せるような存在であるとは言いがたい。しかし、確実に季節に応じた美しさを見せている。本学習を通して普段気づかない〇〇の多様な魅力に気づかせたい。

　完成した作品は地域の公会議場である「〇〇〇」に展示し、地域へ発信していく。それを通して地域の人々との交流が生まれれば、それは〇〇の自然を生かした地域の教育力の活用と位置づけられるものと考える。

別紙　一太郎ファイル「その２」

五　本時　第５校時　（六／六）

１　本時の評価規準・評価方法

イ　自分の伝えたい事実や事柄を明確にし、短歌と前書きをさらに推敲することができる。

２　資料等

教科書、プリント４、プリント５

３　本時の指導計画および評価計画

過程	学習活動 主な言語活動	指導上の留意点	評価基準 Cの生徒への手だて	形態	配時
導入	1　前時までの学習を想起する。	・今までの活動を振り返り、確認する。		一斉	2
展開	2　本時の目標を確認する。 **・発表を聞いて、自分の短歌と前書きを完成させよう。**	・各班の発表を聞き、短歌と前書きを推敲することを告げる。			
	3　各班の代表による発表	・発表者は拡大した作品を黒板に掲示する。 ・聞き手はプリント４に気付いたことなどを記入する。		一斉	25
	4　発表をもとに，短歌と前書きの手直しや工夫した点を書き入れ，作品を完成させる。	・今までの内容を考え自分の短歌と前書きを再度推敲し、その内容をプリント５に記入する。	A　短歌の形式や前書きの趣旨を考えたうえで適切な語句を選択し、読み手に効果的に伝わるように表現を工夫しながら推敲している。 B　短歌の形式や前書きの趣旨を考え、適切な語句を選択し、読み手に伝えることを意識しながら推敲している。	個	20
まとめ	5　次時の学習を確認する。	・「江陽館」に掲示することを確認する。	前書きの原稿作成の際に伝えたい事柄を明確にできなかった生徒には、第４次で示したヒントとなる語句を確認する。	一斉	3

四　単元の指導計画・評価計画

第２学年　　豊かな言葉「短歌を味わう」～短歌を作り，思いを伝える～

指導事項	二・三学年　B　イ　自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすること。

単元の評価規準　　○広い範囲から必要な材料を集め，立場や伝えたい事柄を明確にし，相手に効果的に伝わるように表現を工夫しようとしている。（国語への関心・意欲・態度）
○自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にしている。（書く能力）

配時	具体の評価規準 〈　評価方法　〉	学習活動	指導上の留意点	（関心・意欲・態度） 期待する姿	（話す，聞く，読む，知識・理解・技能） Bの状況 （おおむね満足できる）	Aの状況 （十分満足できる）
1	書：情報を整理している。 （プリント１分析） 関：○○の特徴について知り，創作に取り組んでいる。	1　学習のねらいを確認する。 2　○○の特徴を知り，短歌を創作する。	・プリント「学習の手引き」 ・○○について情報を整理させる。 （プリント１）	・○○の特徴について知り，詩の創作に取り組んでいる。	・必要な情報を集めている。 ・自分の考えや気持ちを明確にして短歌を作っている。 ※Ｃの生徒への手だて 情報をさらに集め，○○の良さや美しさをみつけ，短歌の形式にまとめるよう指示する。	・積極的に情報を集め，題材として活用している。 ・自分の考えや気持ちを明確にし，適切な表現を用いて短歌を作っている
1	関：短歌の特徴を理解している。（観察） 読：紹介された短歌を鑑賞することができる。	3　短歌の特徴を理解し，何首かの短歌を鑑賞する。そのことを通して，自分の作品を見直す。	・短歌の特徴について考えさせる。 ・よく知られた短歌を紹介し，言葉にこめられた思いを感じさせる。	・短歌の特徴を理解している。		
1	読：短歌を鑑賞し，前書きの趣旨を理解している。 （プリント２-①，２-②）	4　正岡子規の短歌を鑑賞し，前書きについて学ぶ。 ※短歌を作ったときの情景や心情。またそれを生かす表現や語句の工夫。	・「藤の花」の十首と前書きの内容を読　み，前書きによって補われる内容を　把握することで，前書きの趣旨を理　解させる。 （プリント２-①，２-②）			
1	関：学習した短歌をもとに，自分の短歌の推敲ができる。 書：前書きの趣旨に沿って文章を書くことができる。 （プリント３）	5　自分の短歌を完成させ，それに添える「前書き」を書き，推敲する。	・言葉を吟味し，思いをこめることを意識させる。 ・前書きの趣旨を意識して文章を書かせる。	・学習した短歌をもとに，自分の短歌の推敲をしている。	・短歌にこめた情景や心情を書いている。 ※Ｃの生徒への手だて 自分の好きな○○のようすを聞き，ヒントとなりうる語句を例示しながら，それを文章化するよう指示する。	・短歌を作ったときの情景や心情を補うための前書きを書いている。
1	関：目的に応じて相互に鑑賞することができる。 （プリント４）	6　短歌と前書きを相互に鑑賞し，班に１名の代表を選出する。	・前書きの内容が適切であるか。短歌にその思いがこめられているか。情景や心情が生かされる表現であるか。などを視点として，他者の作品を鑑賞させる。	・他の生徒の短歌を積極的に鑑賞している。		
1		7　短歌と前書きを発表する。	・班から１名，前に出て作品を発表する。その発表を聞き，各自気付いたことや感想をプリント４に記入させる。	・他の生徒の発表内容をとらえ，感想を書いている。	・情景や心情を伝えようとしている。また，聞き手としてそれを受け止めようとしている。	・情景や心情を伝えている。また，聞き手としてそれを受け止めることができている。
本時	関：短歌と前書きについて工夫したことや変化したことをまとめようとする。 （プリント４，５） 書：自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にし，短歌と前書きをさらに推敲することができる。	8　発表を受け，自分の作品を完成させる。	・他者の鑑賞を通して自分の短歌と前書きを見直し完成させる。プリント５を使い，工夫したことや，自分の中で変化したことなどを記録させる。		・自分の気持ちが読み手に伝わるように推敲している。 ※Ｃの生徒への手だて 前書きの原稿作成の際に伝えたい事柄を明確にできなかった生徒には，第４次で示したヒントとなる語句を確認する。	・作品を見直し，読み手に効果的に伝わるように表現を工夫しながら推敲している。

二年国語学習の手引き　　二年（　　）組（　　）番（　　）

・単元名　豊かな言葉

・教材名　「短歌を味わう」

◎学習の目標

・短歌の知識やものの見方・考え方を生かして、自分の思いが伝わるような短歌を作ることができる。

・自分が見た情景やその時に感じた自分の思いを補うような文章を書くことができる。

・自分が作った短歌を、より具体的に読み手に伝える文章を書くことができる。

学習の流れ	つけて欲しい力	評価
○○の特徴を知り、○○に関する短歌をつくる。		
↑		
有名な短歌をよみ、短歌の特徴を学ぶ。		
↑		
正岡子規の短歌・前書きをよみ、自分の短歌の前書きを考える。 短歌の推敲・前書きを完成させる。		
↑		
短歌の発表を聞き、感想を書く。		